はくぶつかんの部屋 17
博物館での就業体験

宜野湾市立博物館では、教育普及活動の一環として、学校からの要望を受けて、就業体験生を受入れています。代表的なものに、中学校の職場体験、高校・大学のインターンシップ、そして、大学からは「学芸員資格」取得のために、学芸員実習があります。それぞれ体験の目標が異なるため、事前の打合せで学校の学習目的を確認した上で、体験内容を組んで、各校の目標達成に寄与しています。

体験に来た学生に博物館業務についてイメージを聞くと、多くの生徒が、「昔の物を展示する仕事」と答え、博物館に見学に来た際に目にする光景を挙げています。確かに、展示とその解説も大切ですが、全体の業務の中では、氷山の一角に過ぎません。そこで、博物館の仕事全体を知ってもらうために、博物館ならではの、来館者の視点では知ることのない、舞台裏も体験できるようにしています。

例を挙げると、毎日朝・夕に行う、館内チェック・温湿度チェックや、IPM（Integrated Pest Management）と呼ばれる、博物館資料にダメージを与える生き物への対策などの、館内管理の仕事があります。生き物や環境の変化に弱い博物館資料を保護するために記録を付け、異常が見られた場合に対策を講じるという、資料の保管を第一とした博物館の根幹をなす重要な仕事なので、体験生には必ず体験してもらいます。また、各自でテーマを設定してもらい、調査・研究も体験しています。これは、展示物に対して専門家の視点から研究を行い、博物館で見学者に対して解説用の資料を作る体験です。この、展示を説明する前段階の仕事を疎かにすると、正しい情報を見学者の皆様に伝えることができません。

このように、当館での就業体験では、来館者視点では分からない博物館の舞台裏も体験しています。就業体験生には、この機会を活かして、博物館で働くことへのイメージや職業観を固め、それぞれの将来へ役立ててもらえれば幸いです。

▲浦添高校、宜野湾高校の就業体験（インターンシップ）光景。

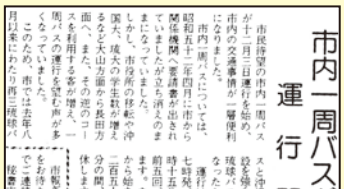
【お問合せ】市立博物館 ☎870－9317
入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館下さい。

茶ぐわーゆんたく 116
バスに揺られて

今から十九年前、宜野湾市内を一周する路線バスがあったことをご存じでしょうか。また、当時ご利用された方は覚えていらっしゃいますか。今回は当時市内を駆け巡っていた、宜野湾市内線に焦点を当てたいと思います。

一九八〇（昭和五十五）年、市役所庁舎が普天間から現在の場所に移転したことや、沖縄国際大学・琉球大学の学生が増加したことなどから、市内におけるバスの利用者が増え、市内一周バスの運行を望む声が高まりました。市の要望を受けた琉球バスが、同年十二月に宜野湾市内線（路線番号七十五番）の運行を始めました。

主な停留地点は、普天間―新城―伊佐―第一大山―大謝名―真栄原―我如古―長田―赤道―上原などがあり、「野嵩回り」と「大謝名回り」の二つの経路がありました。乗車料金は初乗りが七十円、一周乗っても二百五十円（昭和五十五年当時）ということで、市民の身近な交通手段として利用されていました。



市内一周バスが運行開始

市民待望の市内一周バスが十二月三日運行を始め、市内の交通事情が一層便利になりました。

市内一周バスについては、昭和五十二年四月に市から関係機関へ要請書が出されていましたが立ち消えのままになっていました。

しかし、市役所の移転や沖国大、琉大の学生数が増えるなど大山方面へ、また、その逆のコースを利用する客が増え、一周バスの運行を望む声がなくなっていました。

このため、市では去年八月以来にわたり再三琉球バスと沖縄バスに一周線の開設を強く働きかけたところ、琉球バスが運行することになったものです。

運行は、野嵩回りが午前七時発、伊佐回りが午前七時十五分発で、各線とも午前五回、午後七回運行されます。また、料金は七十円から始まり、一周しますと二百五十円です。なお、当分の間、日曜、祝祭日は運休します。

市報ぎのわんへの「話題」をお待ちしています。電話でご連絡下さい。

後書伝報三十四四一二

『市報ぎのわん』1980（昭和55年）12月225号

一九九一（平成三）年十二月には車体のデザインを一新し、黄色の車体に、はごろも伝説の天女の絵を施した「はごろも号」が運行しました。しかし、市民に親しまれてきた市内線も、乗車率の低下などにより一九九四（平成六）年四月に廃線され、十四年間の歴史に幕が下ろされました。

何かと慌ただしい年末時期ですが、たまにはバスに揺られながら、ゆっくり今年一年を振り返ってみてはいかがでしょうか。（文責　中本岩郎）

『市報ぎのわん』1991（平成3）年9月378号表紙

『宜野湾市史』への問合せ
文化課 市史編集係（市立博物館内）
☎870－9317